

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0972700413		
法人名	医療法人普門院診療所		
事業所名	グループホーム能羅坊		
所在地	栃木県芳賀郡益子町益子25番地 (電話) 0285-70-1155		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 7 人	常勤6人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.3人 常勤7人(うち兼務2人), 常勤換算6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての1~2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	・理容代—1,500円/回、美容代—1,000円/回 ・おむつ代—15円~100円/枚 ・光熱水費—500円/日 ・消耗品費—100円/日
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 250 円 夕食 400 円 または1日当たり	昼食 おやつ	350 円 100 円 円

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 普門院診療所、医療法人 桂慈会 菊池歯科診療所
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、里山、農家が散在するのどかで自然豊かな場所に立地している。母体は医療法人であり、敷地続きで老人保健施設がある。認知症介護の場の必要性を感じ、ホーム開設にあたっては、スウェーデンから指導者を招いたり、またスウェーデンに研修に出かけたりしながら、建物だけでなく、認知症ケアの方法や考え方を学んだ。建物は廊下などの共用部、居室とも広くとっており、居室には家具や装飾品などが持ち込まれ個性豊かな環境づくりがなされている。職員は明るく、優しい言葉かけ・態度で入居者に接していた。音楽療法(合唱)は発表の機会なども持ち、入居者の張り合いにもつながっている。運営推進会議の議事録をホームページで公開していたり、地元の方を対象に講話を交えた見学会を開催するなど、オープンな運営に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の取り組みを踏まえて、改善できるところから改善するよう努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は介護主任が実施し、その後に全職員が内容を確認した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者家族代表、民生委員、有識者、町職員、地域包括支援センター職員がメンバーになっており、ホームの状況を伝え、「生活の中に畑仕事を取り入れてみては」「年に2回ぐらい見学会を開いてみては」など具体的な意見や助言をもらっている。運営推進会議の報告書(議事録)をホームページで公開している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や電話などで健康状態や暮らしぶりを伝えている。預かり金は出納帳で管理して内容を報告している。年4回発行の法人の広報誌があり、職員の紹介欄も設けられている。運営推進会議で行事の様子などをホームページに掲載することの提案もあり、プライバシーなどを配慮しながら検討することとしている。家族の訪問時や電話連絡の際に意見等を言ってもらえるよう働きかけている。家族からの話があったときには申し送り、ノートを活用して職員間での共有を図り、その都度改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りやクリスマス会、講演会も兼ねた見学会などに地域の方に参加してもらったり、地域の行事に参加したりしている。散歩の際に言葉をかけたりしながら近所づきあいのできる関係づくりに努めている。自治会にも加入している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	能羅坊の「羅」は「火の如く利己心を焼き尽くす知恵＝福祉の根源」を表しており、他者を自己と平等とみなして個性と尊厳、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供することを運営方針（理念）としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティングで話し合ったりしながら理念を共有し、職員は理念を自分の言葉で述べるができる。また、「能羅坊に個室をもって家族と一緒に生活しているような一つの共同生活体をつくる」ことを掲げ、その実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りやクリスマス会、講演会も兼ねた見学会などに地域の方に参加してもらったり、町の文化祭などに参加したりしている。散歩の際に言葉をかけたりしながら近所づきあいのできる関係づくりに努めている。自治会にも加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の取り組みを踏まえて、改善できるところから改善するよう努めている。今回の自己評価は介護主任が実施し、その後に全職員が内容を確認した。	○	自己評価の段階で更に積極的に職員が参加し、職員間の差異を話し合ったりしながらホームの強みや課題を共有し、また職員間の意識合わせに活かしていくといったことにも期待したい。

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族代表、民生委員、有識者、町職員、地域包括支援センター職員がメンバーになっており、ホームの状況を伝え、具体的な意見や助言をもらっている。運営推進会議の報告書（議事録）をホームページで公開している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での意見交換、その他、町との連携に努めている。法人常務理事は町の高齢者福祉計画の策定委員なども担っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話などで健康状態や暮らしぶりを伝えている。預かり金は出納帳で管理して内容を報告している。年4回発行の法人の広報誌があり、職員の紹介欄も設けられている。運営推進会議で行事の様子などをホームページに掲載することの提案もあり、プライバシーなどを配慮しながら検討することとしている。	○	職員からは、お便りなどに取り組んでみたいという積極的な声も聞かれた。意見や要望の出やすい環境づくり、介護計画作成への家族の参画も見据えて今後更に取り組みを充実していくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡の際に意見等を言ってもらえるよう働きかけている。家族からの話があったときには申し送り、ノートを活用して職員間での共有を図り、その都度改善に努めている。	○	ホームとしては、家族の声を聞くことを大切に考えているので、情報提供の充実と合わせて積極的・継続的な働きかけをしていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない異動等を除き、なるべく職員の変更がないようにしている。職員の休憩室を設けたり、長期のリフレッシュ休暇、法人としての保育室の設置など職員の働きやすさにも配慮している。職員の離職等の場合には、早めに補充して慣れてもらい、また他の職員がフォローしながら入居者に影響のないように配慮している。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老人保健施設とともに年間研修計画を立てており、感染症予防や緊急時の対応などの研修を行っている。外部の研修に参加した時は報告書を作成し、職員間での研修内容の共有に努めている。資格取得に取り組む職員がいる場合などは勤務調整などの配慮をしている。全職員が順番に認知症介護実践研修を受講することを考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、また見学などを随時受け入れているが、他のホームとの交流・ネットワークづくりには取り組んでいない。	○	他のホームと職員が行き来する関係づくりや同業者ならではの疑問や不安などを一緒に話し合っていけるようなネットワークづくりを図っていくことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学などで希望や悩みなどを聞き、不安や希望を受け止めるように努めている。講演会を兼ねた見学会でホームを気に入り、入居につながった例もある。安心感を持ってもらえるような声かけをしたり、本人の様子を見ながら入居者間の関係づくりに配慮したりして徐々に馴染めるような支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできることに配慮しながら家事や畑仕事、花の水やりなどを一緒に行っている。共同生活の中で入居者同士で支えあう姿も見られ、また合唱などを皆で楽しむ雰囲気もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の要望を必ず聞くようにしている。また、普段、職員が入居者と接する中で会話や本人の様子などから、本人の立場に立って本人に必要なことを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りや介護記録、ケアカンファレンスなどを通して現状を踏まえた介護計画の作成に努めている。	○	今後、必要に応じて家族にカンファレンスに参加してもらうことも考えている。それぞれに特徴ある個室づくりや自由に暮らせる雰囲気があることから、関係者の協同でより本人らしい暮らしの支援を追求していくことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月を計画の実施期間として定期的な見直しをしている。また、本人の状態に変化があったときなどは家族とも相談しながら随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定は受けていないが、母体が医療機関であることから受診・入院などの連携が取りやすい体制になっている。また、日常的な場面でも柔軟な支援に努めている。		

グループホーム能羅坊


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者、管理者が医師であり、また、ホームにも看護職がおり、法人の診療所をかかりつけ医にしている方も多いため、スムーズな連携のもと適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望があれば重度化、終末期など状態の変化があっても対応していく方針である。個々の入居者の状態を見ながら、家族、主治医と相談しながら今後の方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「否定しない」ことをモットーにプライドを尊重した言葉かけ、対応に心がけている。個人記録などは鍵のかかる場所に保管している。ホームページなどへの写真掲載検討時などの議論などでもプライバシーを大切にする姿勢がうかがえる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりきった日課等はなく、入居者のペースを大切にしながら、希望に沿った過ごし方ができるような支援に努めている。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は必要に応じて入居者の介助もしながら、一緒に同じものを食べている。昼食・夕食のおかずは業者委託であるが、ご飯、味噌汁、朝食はホームで作り、頂き物なども利用してホームで1品、2品加えたりもしている。入居者のできることに配慮しながら、下ごしらえや後片付けなどを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する方もいるが、体調も勘案しながら週に2～3回は職員が1対1で入浴を支援している。浴槽は猫足の西洋風でやや高さがあるが、補助具なども使いながら安全にも配慮している。窓から隣の野山の風景を見ながら入浴を楽しめるようにしている。また、各部屋にシャワーが付いており、個々にシャワー浴をすることもできるようになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理のない範囲で、洗濯物たたみや食事づくりなどを一緒に行ったり、書道、手芸、音楽療法(合唱)などの楽しみごとの支援をしている。また、町の芸術祭に作品を出品したり、あるいは出演したりしてやりがいにつながる支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日には散歩に出かけたり、月1程度度の行事的な外出をしたり、買い物に出掛けたり、弁当を持って公園にピクニックに出掛けるなど外出の機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けておらず、自由な生活を支えている。訪問日も自由に外出する入居者の姿が見られた。		

グループホーム能羅坊

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の想定も取り入れながら、年2回の避難訓練を実施しており、災害時の対応の研修なども行っている。広域の協力体制づくりの依頼をしている。	○	ホームとして今後、地震や水害なども想定した訓練、研修の実施も考えているので、安全確保策の更なる充実に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食・夕食は、業者委託になっているが、ホームでも頂き物を利用して1品、2品メニューを加えている。また、朝食はホームで作っている。調理師免許を持っている職員もおり、栄養やバランスにも配慮している。体重測定なども行いながら、適切な食事、水分がとれるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関が吹き抜けになっており、花がふんだんに飾られ、明るい雰囲気のある共有空間になっている。気密度の高い造りでベンチレーションシステムになっており、年間を通して適切な温度管理ができ、また気になるにおい等もない。ダイニングテーブルの他にソファもあり、ゆっくりとくつろげる空間づくりにも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室部分が広くとられており、家具や装飾品、趣味の物品などが持ち込まれ、その人らしい居室づくりがなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。